

花鳥風月・俳句

花疲れ埴輪の口や風抜ける

この日より日射病かな救急車

塗塀 良子

豊作を祈り蛸食ふ半夏生

梅雨明けや雑草引くは命懸け

徳永 誠一

ふるさとは遠くなりけり額の花

石鎚は四国の屋根や雲の峰

鈴木 伊都美

山茶花の花満開に得意顔

平和之と跳ねよ卯の年春近し

明星 勲

夏遍路キックボードの茶髪かな

越智 和人

ラジオから水分補給促がせり

あじさい忌昭和のスター天逝し

小林 泰子

大楠へのうぜんかずら描いてみた

落合 敦

梅雨空に生き急ぐよに舞うアゲハ

高橋 学

草笛の道友やふるさとつづきおり

伸び伸びとほったらかしのはやをうり

曾我部 福石

夕立に追はるるやうに戻る子ら

寝転んで入道雲に語る夢

いつ吐くやれろれろと梅干しの種

小田 慶喜

梅雨明けを長靴に飽き孫は待つ

滴りを受け止めごくり延命水

ぼんと音たてしゆわ一つラムネ瓶

小田 和子

紫陽花や七変化する妖精よ

熱帯夜にじみ出る汗危険なり

食べてみた食欲出たよ芋がゆを

石井 トシ子

墓参り歩く姿は父譲り

菖蒲園亀の子静か一步二歩

さらさらと水の流れに秋を乗せ

小野 弘幸